

第1回
朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略
審議会議事録

令和3年6月1日

政策企画課

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回 朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会	
開 催 日 時	令和3年6月1日（火） 午前10時00分から 午前11時20分まで	
開 催 場 所	朝霞市役所 別館5階 502会議室	
出 席 者	別紙のとおり	
会 議 内 容	別紙のとおり	
会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者 2人	

第1回

朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

令和3年6月1日(火)

午前10時00分から

午前11時20分まで

市役所別館5階 502会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

3 そ の 他

4 閉 会

出席委員(6人)

会 長	知識経験を有する者	中 村 年 春
副 会 長	知識経験を有する者	長谷川 清
委 員	知識経験を有する者	小 島 真知子
委 員	市が関係する団体から推薦された者	福 山 敏 男
委 員	公募市民	武 田 範 夫
委 員	公募市民	竹 中 奈保子

欠席委員(4人)

委 員	知識経験を有する者	横 田 結 香
委 員	市が関係する団体から推薦された者	小 林 光 夫
委 員	市が関係する団体から推薦された者	豊 平 洋 祐
委 員	公募市民	神 田 有紀子

事 務 局	市長公室長	宮 村 徹
事 務 局	市長公室次長兼政策企画課長	関 口 豊 樹
事 務 局	同課長補佐	平 間 雄 介
事 務 局	同課政策企画係長	松 尾 賢 治
事 務 局	同課同係主任	江 原 秀 太

所	管	課	産業振興課主幹兼課長補佐	森 田 一 広
所	管	課	同課産業労働係長	小 野 泰 数
所	管	課	保育課長補佐	二 河 健 夫

資料一覧

- ・ 第 1 回会議次第
- ・ 朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗確認シート
- ・ 朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和元年度改訂版
- ・ 参考 1 本市の直近の人口の動向について
- ・ 参考 2 第 5 次朝霞市総合計画後期基本計画の開始に伴う行政評価制度の見直しについて

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・松尾係長

それでは、定刻となりましたので、令和3年度朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（第1回）の会議を始めます。

政策企画課の松尾です。よろしくお願いします。

まず始めに、4月1日付けの人事異動に伴い、新たに事務局となりました職員を御紹介いたします。

宮村市長公室長でございます。

関口市長公室次長兼政策企画課長でございます。

平間政策企画課長補佐でございます。

委員の皆様におかれましても、今年度も引き続き本会議をよろしくお願いいたします。

本日の会議開催にあたりまして、豊平委員、小林委員、神田委員、横田委員から欠席の連絡をいただいております。

議事に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

事前にお配りした資料は、次第を除きますと、朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗確認シート、朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和元年度改訂版の2点です。

また、当日配布資料といたしまして、【参考資料1】本市の直近の人口の動向について、【参考資料2】第5次朝霞市総合計画後期基本計画の開始に伴う行政評価制度の見直しについての2点を机上に準備しております。全てお揃いでしょうか。

事務局からのお願いとなりますが、会議録を作成する都合上、発言されるときは、まず挙手をしただき、会長に指名されてから、お話ししていただくようお願いします。

それでは、中村会長、よろしくお願いします。

○中村会長

皆様、おはようございます。早朝から会議へお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私たちの朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員としての任期が、今度末までということですが、残り一年弱の期間ですが、当審議会の運営について特段の御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨今は、どなたにお会いしても、開口一番、いつになったらこの状況が収束するのだろうかというのが、口癖のようになっています。この非日常の生活が強いられるようになってから一年

半近くが経っていますが、未だにこの新型コロナウイルス感染症への感染リスクの終息が見通せないでいます。このような状況の中にあつて、皆様もさぞや不自由な日常をお過ごしのことと存じますが、くれぐれも御自愛いただき、御健康には十分御留意ください。

それでは、議事に入りたいと思います。

◎ 2 議事 (1) 朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

○中村会長

それでは、議事を進行していきます。

審議に入る前に、ただいま事務局から御説明があつたように本日の傍聴希望者が現在2名おり、既に会場にお入りいただいております。従前は審議会に諮ったうえで、御承諾を得てから御入場いただきましたが、現在は傍聴要領に則つて事前にお入りいただいておりますので御了承ください。なお、会議の途中で新たに傍聴希望者が出てきた場合には、傍聴要領に従つて御入場していただきますので、その点も併せて御了承ください。

ここからは、本日予定されている議事の審議となります。皆様のお手元に、第1回朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会の会議次第があるかと思ひます。本日予定されている議事は、(1)「朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」の一件です。

本日の審議会では、お手元にある「朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和元年度改訂版(令和2年3月)」に記されている、基本目標ごとに計画された施策への取組状況及びその進捗状況と、数値目標の達成状況などについて、その効果検証を行うこととなります。

それでは、各施策の取組状況等について、事務局から改めて御説明をお願いいたします。

○事務局・松尾係長

議事1では、第1期朝霞市総合戦略の最終年度である、令和2年度を対象として、施策の効果検証について御審議いただきますが、事務局からの説明を2つのパートに分け、まず前半のパートでは、本市の直近の人口の動向について御報告させていただいた後、続けて後半のパートで令和2年度の施策の進捗について一括して説明し、その後、まとめて質疑、御意見をいただくという流れを考えております。

【参考資料1】本市の直近の人口の動向について御覧ください。

人口の動向ですが、昨年令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大が始まった最初の年度でもあり、委員の皆様におかれましても、本市の人口への影響が気になるかと存じます。

第2期人口ビジョンに示した項目を中心に、事務局にて、本市の直近の人口の動向について調べましたので、簡単に報告いたします。

まず、「出生・死亡」の状況です。

令和2年の出生は1,320人、死亡は1,020人と、令和元年からいずれもわずかに増えています。

次に、「転入・転出」の状況です。

令和2年の転入は10,148人、転出は9,049人と、令和元年と比較してわずかではありますが、転入は減少、転出は増加の状況ですので、転入超過の状況は続いておりますが、その差は小さくなっていると言えます。

もう少し詳細に転入・転出の状況を見てまいります。

令和2年の転入元・転出先の地域に示した通り、右下、東京都・特別区部からの転入は2,389人から2,517人へと128人増えています。逆に、左上、東京都・埼玉県以外への転出が2,782人から2,979人へと197人増えています。

つまり、これまでの東京一極集中の様相に、わずかではありますが変化が見られる状況です。

直近の人口動向については以上のとおりですが、これらの状況から、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、出生数は減ったのか、本市への転入は減っているのか、また、本市からの転出は増えているのかなど、一般的に想定されている事象については、令和2年のデータだけでは、まだ顕著な傾向としては見えにくいものの、着実に影響が出始めている状況と考えます。

引き続き、新しい人の動きを十分に見極めながら、将来に渡って活力ある地域社会の実現を目指し、総合戦略の施策に取り組んでまいります。前半のパートは以上です。

○事務局・江原主任

続きまして、進捗確認シートを使って、令和2年度の実績等について御説明させていただきます。2ページをお開きください。

まず、進捗確認シートですが、取組方針ごとに作成しており、1重要業績評価指標（KPI）、2KPIの達成状況等に関する説明、3達成状況を踏まえた今後の取組方針の三段構成となっております。

1のKPIの各年度の目標についてですが、平成27年度から令和元年度までは、総合戦略を策定した平成27年に設定していますが、令和2年度については、第1期を1年間延長したことに伴い、令和元年度の状況を踏まえ設定していることから、令和元年度までの目標値から大きく修正されているものもございます。

また、令和2年度の実績値については、新型コロナウイルスの影響により、イベント等が中止となり、大幅に下回っているものも多くございます。

それでは、それぞれの取組方針ごとに御説明いたします。

市内産業の活性化と雇用創出です。K P I ④中小企業融資実行件数の令和2年度実績は、6件と大幅に減少していますが、これは、融資を必要とする事業者が減ったわけではなく、コロナで収入が減った事業者が対象とした政府系の融資を利用した企業が増えたものと考えます。市の融資は、1年間無利子に対して、政府系の融資は3年間無利子と条件面が優遇されていることから、政府系の融資を利用したことにより、市の融資件数が相対的に減ったものと考えられます。

⑤有効求人倍率についても、新型コロナウイルスの影響を受け、市内における求人が不足している状況です。

今後においてですが、平成30年度に策定した「産業振興基本計画」において位置づけた4つのリーディングプロジェクトを推進することで、産業を活性化し、各基本目標を達成していけるよう取り組んでいきたいと考えております。

3ページ、市民の仕事と生活の両立を実現するまちづくりです。①多様な働き方実践企業の市内認定数は、目標を下回る結果となりましたが、認定件数は増加傾向にあるため、引き続き、商工会などの関係団体と連携しながら、推進していきたいと考えております。

また、待機児童数、放課後児童クラブ入所保留者数を指標に設定しておりますが、11ページの保育のシートで同様の指標を設定しているため、数値等については、後ほど説明させていただきます。

6ページ、朝霞市の魅力の再発見と活用による、特色あるまちづくりです。①市内循環バス利用者数は新型コロナウイルスの影響で、公共交通の利用を控える傾向となり、前年度に対して3割程度減少してしまったことから目標を達成することができませんでした。

③公園・緑地管理ボランティア団体数については、1団体解散してしまいましたが、新たに1団体、設立されたことにより、昨年度と同様に21団体を維持することができました。

また、目標値についてですが、他の計画との整合を図ることから、※のとおり一部修正させていただいております。

7ページ、ふるさと意識の醸成です。①地域イベント参加者数ですが、「黒目川花祭り」、「彩夏祭」、「アートマルシェ」、「どんぶり王選手権」は、本市の四季のイベントとして、市内外に広く認識されつつありましたが、令和2年度のイベントは新型コロナウイルスの影響からすべて、中止となってしまいました。

②博物館入館者数③旧高橋家住宅来園者数についても、イベント等の中止により、目標を達成することができませんでした。

今後においては、従来どおりのイベントの開催は難しいことから、「新しい生活様式」の中で、イベント等を実施するなどし、ふるさと意識の醸成を図っていきたいと考えております。

8 ページ、朝霞市の魅力を発信するシティプロモーションです。①朝霞市フェイスブックページのファンの数についてですが、増加傾向ではございますが、目標を達成することはできませんでした。目標を達成できなかった要因の一つとして、フェイスブック自体のユーザー離れが考えられることから、今後においては、より効果的な方法で情報発信を行っていきます。

10 ページ、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援体制の構築です。まず、資料の修正がございます。2の進捗状況の5行目に、母子手帳交付のための来所者数は令和3年度、1259人とありますが、令和2年度の誤りです。申し訳ありません。

それでは、内容について御説明いたします。①専門職が面談する妊婦の人数ですが、目標を達成することができませんでした。対象となる、妊娠された方自体が例年1400前後を推移していましたが、コロナの影響で妊娠された方自体が1割程度減ってしまっております。面談の実施率については96.6%で、面談ができなかった方についても、電話等で聞き取りを行うことで、状況を把握することができました。

②こども医療費助成制度における、対象こども1人当たりの年間受診件数についても、一人当たり年間0.9件の受診と例年の件数から減少しています。これは、新型コロナウイルスの影響で医療機関への受診を控えた結果であると考えております。

今後においても、必要な医療を適正に受けていただくよう、資格登録時をはじめ、必要な情報を周知発信してまいります。

11 ページ、様々な保育需要に応じた環境づくりです。①待機児童数②放課後児童クラブ入所保留者数についてですが、令和2年度においても、新たに施設を整備し、保育施設については、197人、放課後児童クラブについては、90人受け入れ枠を増やしましたが、保育需要が上回ってしまい、目標を達成することができませんでした。

今後においても、朝霞市子ども・子育て支援事業計画に基づき、園の整備を進め、待機児童の解消に努めてまいります。

12 ページ、魅力ある教育の推進です。全国学力・学習状況調査の正答率を指標としておりましたが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまったことで、進捗を図ることができませんでした。

14 ページ、人と人がつながり、健康で一人一人が自分の生きがいを持てる地域づくりです。指標①、②の文化祭及び体育祭については、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

③、④の健康寿命についてですが、埼玉県が公表するデータを指標としている関係で、情報が1年遅れとなっております。令和元年度につきましては、資料作成後にデータが公表されました。値は、男性は、18.00、女性は、20.68で、目標を達成することができております。今後

においても、健康寿命の延伸に向け、多くの方に参加していただけるような取組について、検討していきたいと考えております。

15 ページ、様々な人々が相互に支え合うまちづくりです。②自治会・町内会加入率ですが、加入率の減少に歯止めをかけることができず、今年度においても目標を達成することができませんでした。

コロナ禍においても地域活動が停滞することがないように引き続き、情報提供や加入促進に取り組んでいきたいと考えております。

16 ページ、地域防災の連携を図り、災害に対応できるまちづくりです。②災害時相互応援協定先との交流回数ですが、新型コロナウイルスの影響で交流の機会が減少してしまい、目標を達成することができませんでした。

今後においては、コロナの影響を踏まえながら、SNSなどを活用し、交流先自治体の魅力を発信し、交流の促進を図っていきたいと考えております。

令和2年度の進捗の説明は以上です。

また、本日は、総合戦略の施策に関連が深い担当課として、産業振興課と保育課の職員が同席おります。

○中村会長

松尾係長、江原主任ありがとうございました。

ただいま、事務局から、直近の人口動向と総合戦略で計画されている各施策の進捗状況等について御説明をいただきました。人口動向については、ただいまの御説明からは新型コロナウイルス感染症拡大の影響が全くないというわけではないが、しかしそれが顕著に表れているという状況でもない、という見解が示されました。しかしながら、各施策の進捗状況に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、様々なイベント等を中止せざるを得なくなり、また各施設の利用が制限されたことなどにより、数値目標等に大きな影響が出ているとの説明がありました。

これらの御説明を踏まえて、委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。

武田委員、お願いします。

○武田委員

進捗確認シートの2ページの指標の商店街の店舗数ですが、令和元年度に大きく減っているようですが、統計の取り方が変わったのでしょうか。また、令和2年度も目標と実績との間に大きな乖離があるのですが、この辺の理由について、わかる範囲で教えていただきたいのですが。

○中村会長

事務局から、どなたか御回答をお願いします。

産業振興課産業労働係小野係長、お願いします。

○所管課・小野係長

まず、武田委員がおっしゃるように、統計の取り方を少し変えた部分がありました。平成30年度以前については、商店街ごとの加入店舗数を全て合算していたのですが、一部の商店街については、数年前に店舗数を確認してから、その都度、確認せず、そのまま合算していたという状況がありました。そのようなことを踏まえまして、令和元年度については、補助金を交付するなど、実際に連絡を取り合っている商店街の店舗の数を整理したところ、数が減っております。

直近で店舗数を確認できていない商店街については、実際は組織としてほとんど活動していないような状況となっております。

○中村会長

小野係長、ありがとうございました。

武田委員、如何でしょうか。

○武田委員

それでも、令和2年度目標値については、あまり下げなかったということでしょうか。

○中村会長

小野係長、お願いします。

○所管課・小野係長

そのとおりです。目標値はあくまでも目標値として設定させていただいて、目標の達成に向けて取り組んでまいりました。

○中村会長

武田委員、よろしいですか。

○武田委員

令和2年度のこの現象の要因ですが、一般的に言われている後継者難ですとか消費行動の変化によるものなのか、それともコロナによる影響なのか、市で分析しているのでしょうか。

○中村会長

小野係長、お願いします。

○所管課・小野係長

後継者不足というのは大きいと思います。また、コロナの影響により事業継続が厳しくなっているというのは、全体のこととして言えると思いますが、これを機に後継者もいないし店をやめてしまうというケースも実際に生じております。

○中村会長

武田委員、よろしいでしょうか。武田委員、小野係長、ありがとうございました。

福山委員、お願いします。

○福山委員

商工会への加入促進に取り組んでおりますが、現状では脱会する数の方が上回っております。

脱会の理由としては、市外へ出る人とやめる人が非常に多くなっております。やはり、コロナもあるでしょうし、後継者不足や高齢化が原因でやめられる方もいらっしゃいます。

○中村会長

福山委員、ありがとうございます。

ただいま、市外に出て行く事業者と廃業する事業者が多くなっているとおっしゃいましたが、具体的にどちらの方へ出て行っているか。その辺りは把握していますでしょうか。

○福山委員

いろいろな方がいらっしゃいますが、だいたい朝霞よりも郊外に行かれる方が多いです。

やはり脱会の理由としては、転居される方よりもやめてしまう方の方が多いです。

○中村会長

福山委員、ありがとうございました。

長谷川副会長、お願いします。

○長谷川副会長

それに関連して質問なのですが、商工会に加盟していない事業者っていうのは、どの程度いらっしゃるのでしょうか。

○中村会長

小野係長、お願いします。

○所管課・小野係長

手元に詳細な資料はないのですが、商工会の加入率は54%程度で、市内の事業者数は、経済センサスの調査で、約3,500ですので、商工会に未加入の事業者は1,600程度になるかと思えます。

○中村会長

福山委員、お願いします。

○福山委員

未加入者は多いです。出先機関の事業者もありますから、そういうところは、朝霞で入る必要がないと考える方もいますので。

○中村会長

負担金の影響は考えられるのでしょうか。それと、地方都市の商店街でよく聞くのは、チェーン店が商店街振興組合になかなか加入してくれないということです。朝霞市の場合も、そのような傾向は見て取れるのでしょうか。また、商工業者が商工会義所や商工会に加入することの必要性やメリットをあまり感じていないということが、加入しないことの理由なのでしょうか。

小野係長、お願いします。

○所管課・小野係長

おっしゃるように、入らないという考えの方もいます。

商工会の方がいる前で僭越ですが、聞いた話によりますと、商工会に入っても負担金に対して、メリットが少ないと感じる方がいるようです。ただ、商工会では、イベント等も行っていきますし、コロナ禍で必要な支援情報が入ってくる仕組みもありますので、市としては、加入についての御案内はさせていただいております。

○中村会長

福山委員、お願いします。

○福山委員

最近では、市外の事業者が朝霞の商工会が行っている事業に賛同して、朝霞の商工会に加入したいという方も結構います。それと、補助金に関する事を商工会でやっているのだから、その為に、いまままで加入していなかった方が加入するというケースもあります。

○中村会長

コロナ禍で、商工会に加入することの必要性を改めて実感したということでしょうか。

長谷川副会長、福山委員、小野係長、ありがとうございました。

他に、どなたか如何でしょうか。

小島委員、お願いします。

○小島委員

7ページに書いてある、地域づくり支援課が行った彩夏祭の代替イベントってというのは、どんなことが行われたかを教えていただけてよろしいでしょうか。

○中村会長

7ページに記載の彩夏祭の代替イベントについてですね。

事務局から、どなたか御回答をお願いします。

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

彩夏祭の代替イベントとして一番大きいのは、あさか冬のあかりテラスと申しまして、昨冬にシンボルロードをイルミネーションで飾りつけました。

その他は、イベントではないのですが、太陽光で光をためて、夜になると光る彩夏ちゃんのシーンを飾ったりもしました。

○中村会長

宮村市長公室長、ありがとうございます。

小島委員、よろしいですか。

○小島委員

イルミネーションでは、点灯式みたいなイベントは行ったのですか。

○中村会長

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

イルミネーションは、ちょうど緊急事態宣言が切れた後に始めましたので、オープニングセレモニーは実施させていただきました。

期間中は、夜イルミネーションを行うわけですけど、かなり広い場所で行っているんで、人が密集するなどは、なかったと認識しております。ただ、途中で緊急事態宣言が再発令されてしまい、イベントを休止したのですけれども、再開することができないまま期間が終わってしまいました。

○小島委員

ありがとうございます。

○中村会長

小島委員、宮村市長公室長、ありがとうございました。

他に、どなたか如何でしょうか。

長谷川副会長、お願いします。

○長谷川副会長

確認だけさせていただきます。

資料の15ページ自治会・町内会の加入率は、ずっと下がりっぱなしで近いうちに40%を割り込むのが懸念されるのですが、自治会制度が始まってかなりの年月が経っているので、制度疲労にあるのかなと考えています。制度疲労の中には、住民自体の意識が大きく変わってしまって、加入するメリットが見つかりにくいという要因があるのかなと思います。

また一方で、自治会の活動はかなり負担感が強い仕事ですので、そういった意味で、行政の側で

自治会への支援を抜本的に見直す時期に来ているのかなと思うのですが、その辺のところを事務局ではどのように考えているのでしょうか。

○中村会長

事務局から、御回答をお願いします。

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

自治会の加入率については、確かに減少の一途をたどっているのですが、世帯数が増えているので、加入世帯数自体はそれほど変わっていない部分があります。

ここで、積水の工場跡地に積水が開発した住宅が130戸くらいとマンションができて、それぞれ新たに自治会を作ってください、加入していただくよう働きかけを行っております。

自治会連合会の方でも、駅頭で街頭活動をしたりですとか、加入促進を市役所の転入窓口で行ったりとか、自治会連合会と市が協働しながら加入促進を図っております。

ただ、長谷川副会長がおっしゃられたように、自治会の活動自体は、役員のなり手がなくて、その負担感が大きいというのは、事実ございます。役員の高齢化というのも非常に進んでいて、それを今後どうしていくかということですが、地方自治体といたしましても、情報を周知するなどの様々な面で、自治会・町内会の役割というのは大きいと考えております。

また、災害が起きた時には、自治会の役割が見直されるときでございまして、例えば、朝霞にはよく台風が来て、避難所を開設するのですが、そのような時にも自治会の役割というのは非常に大きいものと考えております。

根本的な見直しについては、必要だと思いますし、見直しを行っているところも増えてきています。根本的な見直しをするには、今の自治会・町内会の区域割というのを大きく見直して、行政区を作りながらやっていくというような見直しが必要だと考えますが、自治会・町内会は、名前のとおり、それぞれの地域が自主的に活動を行う団体だということを尊重しなければならない部分もありますので、我々としましても自治会連合会と今後の在り方について、十分に協議していかねばならないと考えております。

○中村会長

長谷川副会長、お願いします。

○長谷川副会長

私自身も自治会の活動に関わりをもっておりますけど、自治体の方から、いろいろ指示されて結構な仕事量になっております。実際に勤務されている方にとっては、自治会の活動の為に時間を捻出するのが非常に難しい状況です。また一方で、結構な見えない支出があったりもします。その辺

を行政の方で意識的に支援する工夫を考えていただく必要があるのかなと思います。

私の経験で一番困ったのは、個人情報保護の関係です。災害時に支援をしなければいけないため、市役所の方から役員だけに限定されて名簿が提供されるのですが、いざという時に誰が何をするかという役割を決めにくい状況になっております。

私は15階建てのマンションの1階に住んでいるのですが、マンションの15階には独居の老人が住んでおります。そうすると何かあったときに、私は15階まで独居の老人を助けに行かなければいけません。個人情報の関係がなければ、あらかじめ誰が助けに行くかを決めておけるのですが、そういった現実問題を踏まえ、時代が変化しているということを強く意識していただく必要があるのではと思っております。

○中村会長

長谷川副会長、宮村市長公室長、ありがとうございました。

武田委員、お願いします。

○武田委員

この加入率についての全国平均とか、朝霞がどの程度の水準にあるのかなどはわかるのでしょうか。また、加入率が下がっている朝霞市特有の要因とかはあるのでしょうか。

○中村会長

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

申し訳ございません。全国平均等についての詳細な資料は手元にないのですが、地方の方は非常に高い加入率となっております。県内ですと、県北の方は高い加入率となっております。また、隣の和光市では40%を下回っている状況で、新座市は若干高い率で50%程度という状況です。

加入率がこのようになってしまっているのは、朝霞市は転入転出が非常に多い地域でありまして、毎年1万人が転入してきて1万人が転出していくという自治体であるということと、駅周辺にマンションが多いということで、やはり、賃貸マンションの住人の方は、なかなか自治会に加入されないということもありますので、難しいのかなと考えております。

○中村会長

武田委員、お願いします。

○武田委員

前にも議論したかと思うのですが、高齢者が孤立するのを防ぐという意味でも非常に重要なテーマだと思うのですが、市としては重点施策という位置づけで考えているということによろしいでし

ようか。

○中村会長

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

自治会の加入率の向上という目標は掲げておりますけれども、維持をするのが精一杯の状況ですが、市としては自治会の役割は大きいと考えておりますので、市の中の位置づけとしては重点施策であると考えております。

○中村会長

武田委員、宮村市長公室長、ありがとうございました。

私も、自治会・町内会の役割は、これから大きくなるだろうと感じております。個人的には、東日本大震災で被災した地域の復興支援活動に少しだけ関わってきた経験があるので、なおさらその感を強くしております。東日本大震災の被災地では、日頃から住民同士の結びつきがしっかり保たれていた地域ほど、復旧への立ち上がりが早く、復興へ向けての住民間の合意形成とその後の行動、地域の再生に向けた自立の動きも早かったように思います。逆に、住民間の結束力が弱く、コミュニティ活動が低調であったところは、何か一つの事を決定する場合でも、合意形成に時間がかかったり、全体の合意を取り付けることが非常に難しく、結果として復旧、復興が遅れたという状況がありました。日本列島は、今後、大地震、異常気象による大型台風の襲来や想定を超えるような大水害など、大規模な自然災害の発生が想定されています。今のうちにしっかりとしたコミュニティを形成しておかなければ、何か事が起こってからでは対応できないと思います。では、抜本的な解決策は何かと問われても、即答は難しい。私も賃貸マンションの住人で、入居後すぐに自治会へ加入し、自治会活動にも協力してきました。役員となるよう勧誘もされましたが、時間が取れずに、代わって妻が役員として活動していました。自治会も若い人が役員を引き受けてくれたり、活動に参加してくれたという状況がほとんど見られないので、役員の高齢化が顕著です。現状で再度、自治会を活性化するというのはかなり厳しいと感じています。行政の支援があればというお話もありますが、それだけでは問題の解決とならないように思います。いま私たちの足元で起きていることに、地域住民がどのぐらい関心をもって、そこへ目を向けているか。おそらく、そのことが問われているのだらうと思っています。

他に、どなたか。

竹中委員、お願いします。

○竹中委員

質問なのですが、8ページの3今後の方針の最後の一文にフェイスブックからツイッターにKP

Iを変更するとありますが、どのようなKPIが設定されるのでしょうか。

○中村会長

事務局から、お願いします。

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

計画策定当初は、市でもフェイスブックを始めまして、いろいろな情報を発信していたんですけども、今、若い方はInstagramに流れてしまって、フェイスブックをやっている方があまりいなくなっております。ですので、登録者数もあまり伸びなくなっているの、今後の展開についても考えなくてはならないと思っております。

ツイッターは、フェイスブックと比べると引き続き利用されていることから第2期では指標として設定しております。

○中村会長

竹中委員、お願いします。

○竹中委員

フェイスブックからツイッターだと作りが違うので、プロモーションの仕方が変わってくると思うので、どういったプロモーションをするのかなど。

○中村会長

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

是非、御覧いただいて、意見を言っていただければと思うのですが、情報を発信するという意味ではあまり変わらないのですが、フェイスブックの方は写真を添えたり、いろんな形で大きな情報を発信できる面があると考えておりますが、受ける側は、ちょっとした情報をその都度受け取った方が受け取りやすいのかなど。そこら辺は、検討しながら今後の展開について考えて参ります。

○中村会長

長谷川副会長、お願いします。

○長谷川副会長

この問題は、使用する機器の変化に合わせて考えなければならないわけで、フェイスブックが流行っていたパソコンの時代からスマホの時代へシフトしてしまっています。そして、このスマホがいつまでもつかわらないのですが、10年先には別のものが出てきているかもしれません。

SNSが不自由なく使えるようなことで、どんどん新しいものを取り入れていくというスタンスが必要なのだと考えます。

○中村会長

現代の情報通信社会は、リアルタイムで環境が変化しています。それに適応していくのは、情報の受け手も然ることながら、情報を発信する側にも様々な工夫が求められます。情報を必要としている人たちのところへの確に情報が届くように、情報発信の方法等に関しても随時、検討してください。

竹中委員、長谷川副会長、宮村市長公室長、ありがとうございました。

宮村市長公室長、お願いします。

○事務局・宮村市長公室長

話は少しずれてしまうのですが、今、予防接種の関係で65歳以上の方、全世帯に通知を出しまして、申込を行っているのですが、やはり高齢者の方の中でも、家族と一緒にいらっしゃる方とか65歳以上の方でもスマホを持っている方とかは、インターネットで申込ができるのですが、市の方で設定しているコールセンターは、15回線程度しか契約していないので、なかなかつながらなかったということで、封筒を持って市役所に来たり、市役所に直接電話をしてくれたりしたので、市としては、受付ける体制を整えて対応するなどして、高齢者29,000人のうちの67%まで予約を受付けることができている状況です。

やはり、情報化社会の中で、65歳以上の方については、なかなか波に乗っていけない状況があるのかなど。ちょっと、話がずれちゃったのですけど。

○中村会長

話がずれたついでに、私も新型コロナウイルスワクチンの優先接種の対象者なので、当事者の体験談を述べます。ワクチン接種券が金曜日の夕方に届いたので、その日に予約を入れることはしませんでした。翌日の土曜日から月曜日まで3日間は県外へ用事で出掛けていたので連絡ができずに、接種券が届いた日から4日経って、5日目になってようやくコールセンターへ電話し、予約しようと思ったのですが、午前中、何度電話しても全く繋がらないので諦めて、午後は仕事があったので外出しました。夕方に仕事から戻って電話での予約は諦めて、その夜パソコンに向かってインターネットで予約を入れました。インターネットでの予約はスムーズにいきましたが、接種券が届いてから大分時間が経っていたので、ワクチン接種を受けることができる医療機関や接種会場、日時などがあらかじめ埋まってしまっていて、希望する日時、医療機関等で予約することができませんでした。インターネットでの予約だと24時間対応なので、最初から接種券が届いたその日のうちにネットで予約を入れるべきであったと後悔しました。そこで、知人たちには、まず接種券が届いたら何を差し置いても直ぐにインターネットで予約するようアドバイスをしています。我々の年代も最新のツールを使いこなせないと、場合によっては命に関わることになる可能性もゼロではな

い、と改めて実感した出来事でした。高齢社会で、かつ高度情報通信社会の中であって、デジタル・デバイスの影響はかなり大きいと考えられます。現代社会の環境にうまく適応できない高齢者を見過ごしてはならないと思います。

武田委員、お願いします。

○武田委員

国の施策を見ても今回の接種に関しては、強引にデジタル対応を強制したような格好なのですね。デジタル庁の創設っていうのも関わっていると思いますが。反面で高齢者っていうのは、なかなかデジタル化には対応できないっていう問題もありまして、二極化してくるという感じがします。その中で、今回、国はデジタル化で一気にやった、それでできない人は混乱しているっていうのが現状ですので、今後は、対応を考えなければならないのかなと思いました。

○中村会長

武田委員、ありがとうございます。

小島委員、お願いします。

○小島委員

エレベーターのところに、予防接種の受付をお手伝いしますっていう張り紙が貼ってあったのですが、その情報をフェイスブックで周知していました。ですが、それを必要とする人は、フェイスブックを見ないよなって思いました。

それと、私は子育て支援をいくつかの団体でやっているのですが、このコロナ禍で全然できておりませんでした。先日、1年3か月ぶりに、屋外の朝霞の森で開催することができました。

その時、あいにく雨が降ってきて皆さんはお帰りになったのですが、一組の親子が、雨の中、ずっと木の下にいらっしゃって、気になって声をかけてみたら、今日は夫が自宅でリモート会議をやっているので帰れないんですっておっしゃって、なんかすごい切なくなっちゃって。でも、たぶんこの方たちだけでなく、いろんな方がコロナで影響を受けてきつい思いをしているのだろうなって。そうすると、以前お話ししたのですが、武蔵野市が公民館などの一角にフリーWi-Fiを設置し、そこで仕事ができるスペースとして貸し出すということを行っているのですが、今後はそういうのが必要となってくるのではないのでしょうか。そういう設備が安く利用できるのであれば、広い家を求めて、朝霞より地方に転居しなくて良くなるのではないのでしょうか。

今後は、会議などでも、いろんな機器を持って参加するため、Wi-Fi環境が必要となってくると思うので、Wi-Fiの整備を朝霞市の施策の中に入れていただけるといいのかなと感じました。

○中村会長

小島委員、御指摘ありがとうございます。

武田委員、お願いします。

○武田委員

最近、大学のオンライン授業について取材をしたのですが、そこで起きた問題で面白かったのが、学生が四六時中、家にいるようになったことで、親との関係が悪化したという悩みが増えたということでした。それで今おっしゃったように、これからのビジネスの一つとして、例えばサテライトオフィスでテレワークするとかオンライン授業を受けるとか、そういうのも、今後可能性があるのかなど。今、話を聞いていて思いました。

○中村会長

武田委員、ありがとうございます。

ただいま、お二人の委員から出た御意見でサテライトオフィスを利用したテレワークは、今後確実に増えていくと思います。大学生がオンライン授業を受けるためにサテライトオフィスを利用するかどうかは分かりませんが。意外とネットカフェあたりを利用するかもしれません。それはさて置き、この新型コロナウイルス感染症のパンデミックが終息しても、すべての従業員がこれまでのように職場へ出掛けて、元のように対面での仕事に全面的に戻るかどうか。今回のコロナ禍で、日本の企業社会にテレワークがかなり浸透し、さらにテレワークでも可能な業務がはっきりと判ってきたので、すべてが元に戻ることはないだろうと思っています。自宅が少し手狭であるとか、お年寄りや子どもさんがいて、自宅ではテレワークが難しいという人も少なくはないと思います。朝霞市においても、今後サテライトオフィスの需要が出てくるであろうと想像されます。マンションやアパートが多い、特に駅周辺などにおいては。

長谷川副会長、お願いします。

○長谷川副会長

本日、配布された参考資料1の転入・転出の推移を見て、改めて印象付けられたのが、平成24年を起点にして、転入、転出の数がはっきりと開いています。よく、ワニの口といわれますが。

こういう状況っていうのは、朝霞の立地を反映しているということだろうと思うのですが、一方で、この傾向をいかに持続させていくかということが朝霞市の将来を考える上で、非常に重要なのかなと考えます。それでその際に、今、お二人が御発言された、コロナを契機に仕事あるいは学習のやり方が変わってきたということを意識して、環境をどう整備していくか。これは行政の大きな役割ではないかと思っています。

○中村会長

長谷川副会長にたいへん上手く締めていただきました。ありがとうございました。

他に、どなたか御意見がございますか。

もし他に御意見が無いようであれば、議事（１）「朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について」の審議は、これで終わりにします。

◎3 その他

○中村会長

「その他」で、事務局から、御報告などがあれば、お願いいたします。

○事務局・松尾係長

一点、進捗管理についての補足ですが、第２期の総合戦略では、基本目標１に働きやすい環境づくりということで、コワーキングスペースやシェアオフィス、SOHO、サテライトオフィスなどの整備支援等にも取り組んでいくということで策定しておりますので、今日いただいた御意見を踏まえて、それを発展させていただくことを検討したいと思います。

それでは、「その他」です。本日お配りしました参考資料２を御覧ください。

５月２５日に開催した外部評価委員会で使用した資料を使って今後の審議体制の見直しについて説明させていただき、御意見等ございましたらいただきたいと思っております。

本市で取り組む主要な計画のうち、表に挙げた３つの計画については、政策企画課で事務局をやっておりまして、全庁で横断的に取り組んでいます。

「総合計画」は、行政運営全般に取り組むものであり、この外部評価委員会で市の施策評価の結果について検証をしていただいております。

「総合戦略」は、この会議で、地域経済の活性化と人口減少の克服をテーマとし、まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会で施策の効果検証を行っていただいております。

「行政改革」は、行政事務の効率化及び市民サービスの向上をテーマとし、行政改革懇談会で施策の推進について御意見を伺っています。

３つの会議体が別々にあることによって、例えば、外部評価委員会でいただいた意見と同じ意見が別の会議体で重複して出てきたり、分野特化したほかの２つの会議体では、全分野について審議する外部評価委員会と違って、市全体の取組の把握が十分進まない中で、それぞれのテーマに特化して意見を求める状況があるものと考えています。

従いまして、この３つの会議体を一つに統合し、一体的に審議することを検討してまいります。

市としましては、市の取組を全体的に見ている外部評価委員会の中で、人口・経済や、行政改革

についても審議していただくことで、より効果的な評価が実現できるものと考えております。

本件について、先日開催した外部評価委員会に示しましたところ、方向性としては概ね問題ないとの御意見をいただきました。

このほか、統合後の審議会においては、より効果的な審議の進行も含めて検討してほしいとの御意見も併せていただいています。

本審議会の委員の皆さまからも、もし御意見がございましたらお願いします。

事務局からの説明は以上です。

○中村会長

松尾係長、御説明ありがとうございます。

ただいまの御説明だと3つの会議体を一つに統合したいということですね。そうすると委員の人数はどうなるか分かりませんが、会議の回数が増えると想定してよろしいですか。

○事務局・松尾係長

増えるだけですと、統合したメリットがあまりありませんので、回数を増やさずに、全体的な議論の中で、人口についての意見をいただける場を設けることなどを考えております。具体的な方法については、検討中の段階です。

○中村会長

松尾係長、ありがとうございます。

武田委員、何か御意見がございませんか。

○武田委員

統合については、良い面も悪い面もあると思うのですが、統合の一番の狙いはどこにあるんでしょうか。

○中村会長

関口市長公室次長、お願いします。

○事務局・関口市長公室次長兼政策企画課長

会議体が3つある中で、現場サイドからすると、様々なところからいろんな意見がきてしまいますので、それを一本化したいというのが正直なところです。

組織体を一つにして、そこで施策を評価いただくのですが、その中で、外部要因として、人口の問題だったり、産業の問題だったりと一緒に議論していただくというのが狙いです。

ただ懸念としては、この会議体は、そもそも総合戦略を策定するために組織化されていますので、次期の計画を策定する場合にどうするかなど、今後、検討してまいりたいと思います。

○中村会長

因みに、組織体は一つに統合するとのことですが、その中に部会等を設置することは検討していますか。

関口市長公室次長、お願いします。

○事務局・関口市長公室次長兼政策企画課長

そこまでは決まっておられません。ただ、いままでの議論の蓄積がありますので、それぞれの会議体からはそれぞれ参加していただかないといけないだろうなと考えております。

○中村会長

関口市長公室次長、ありがとうございます。

武田委員、お願いします。

○武田委員

多様化が叫ばれている中で、いろんな意見が反映されれば良いと思います。効率化した分は、別の施策に向けてもらえば良いことですし。今、おっしゃたように分科会を設けるというのも一つの案だと思います。

○中村会長

武田委員、ありがとうございます。

確かに、会議体が多くなると日程調整も大変でしょうね。

小島委員、御意見はございませんか。

○小島委員

個人的な意見ですけど、会議に出席される方の人数が多いと、意見が言いづらい部分があります。先ほど会長がおっしゃたように、分科会などがあれば意見が言いやすいかなと思います。

○中村会長

武田委員、ありがとうございます。

福山委員は、いろいろな審議会に参加する機会が多いと思いますが、御意見はございませんか。

○福山委員

統合するのは良いと思います。効率化する意味でも、数の縮小は良いと思います。

ただ、先ほども出たように分科会は必要になるのかなと思います。

○中村会長

福山委員、ありがとうございます。

竹中委員は、御意見ございませんか。

○竹中委員

私は、市民の立場からこういった会に参加させていただいて、ありがたいと思っておりますので、審議会が統合されても市民参加ですとか、男性の割合が少し多いと思いますので、主婦の方ですとか、子育て世代の方ですとかの意見が反映される会にさせていただけると良いと思います。

○中村会長

統合しても、委員の中に市民の代表は必ず入ってくると思います。

本審議会の委員の皆様からは、以上のような御意見を頂戴しました。これらの御意見を参考にし、次のステップへ進んでいただけたら有難いと思います。

事務局から、他に連絡事項等がありますか。

関口市長公室次長、お願いします。

○事務局・関口市長公室次長兼政策企画課長

委員の皆様は令和4年3月31日までとなっております。今年度の会議の予定は、本日の1回ということになっておりますので、実質的に本日が最後の会となります。

総合戦略については、人口問題から始まりまして、いかに住民を増やすかという点において、さまざまな議論をしていただいて貴重な御意見をいただきました。

長年にわたり、ありがとうございました。

◎4 閉会

○中村会長

関口市長公室次長、ありがとうございました。

他になければ、本日の第1回朝霞市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会は、これで終了いたします。委員の皆様には、諸事繁多の折、またコロナ禍にもかかわらず、早朝から会議に御出席し、審議に御協力いただきまして、まことにありがとうございました。皆様にお会いするのはこれが最後であろうと思います。皆様の益々の御健勝と更なる御活躍をお祈り申し上げます。